

コロナ禍での薬局の奮闘に自治体独自の助成を！！

かがわ保健企画・香川民医連が健康福祉部薬務課と対県交渉

11月9日(水)香川保健企画の白石理事長、真鍋専務、川村薬局長、細谷事務長、矢野理事と香川民医連の大西会長、奥谷事務局長が県庁内で、「新型コロナウイルスでの保険薬局への助成金支払いに関する要望書」を健康福祉部薬務課に手渡し、1時間ほどの対県交渉を行いました。

- ① コロナ感染症対応地方創生臨時交付金として保険薬局にも補助金を交付すること。
- ② 0410対応の配送費用が全額患者負担となりましたが、県費助成によって従来通りの水準に戻すこと。
- ③ 「CoV 自宅」、「CoV 宿泊」及び0410対応で配送手配する場合、薬局での配送準備実務及び経費補償として500円を支給すること。
- ④ 「CoV 自宅」「CoV 宿泊」患者に薬剤師以外の薬局従事者が車で届ける場合のガソリン代を支給すること。
- ⑤ 保険薬局の従業員には国のコロナ対応従事者慰労金は支給されていません。保険薬局の従業員にもコロナ対応従事者慰労金を県独



自で支給すること。特に、PCR等無料検査実施薬局及び「夜間・休日における自宅療養者向けオンライン診療に係る薬の配達対応薬局」には厚く支給すること。

以上の5点の要望趣旨や今後薬剤師会なども意見交換していくことなどを白石理事長が説明した後、それぞれから現在の現場の苦労や患者負担、経営的負荷などのリアルな実態や薬局としての思いを訴え懇談しました。最後に大西県連会長から「国の政策に意見を言うことと合わせて、県にはぜひ不十分な点を独自施策で補うなど防波堤になってほしい」などの点が強調され終了しました。



2022 介護認知症なんでも(無料)電話相談が開催されました。

11月11日(金)「介護の日」に「認知症の人と家族の会」と共同で、香川(会場は民医連会議室)も含め全国30県35カ所で取り组まれました。香川で4件、全国で200件(途中集計)の相談がありました。香川会場のようすはNHKで昼の時間と夕方の時間の2回放映されました。

(右は「認知症の人と家族の会」香川支部 松木会長)

